

クラス番号	626	担当教員名	片岡 幸雄
テーマ	福祉・保健・医療の変化の中でMSWの役割と課題を考える		
著書・論文 研究課題等	「福祉・介護に求められる生活アセスメント」(共著) 中央法規 2007 年 「医療のなかでいかに社会福祉を实践するか～医療ソーシャルワーカーの揺らぎ～」『医療ソーシャルワーク』93 号 愛知県医療ソーシャルワーカー協会 2006 年 「日本医療社会事業協会の国家資格制度化運動をふりかえる」『医療ソーシャルワーカー新時代 地域医療と国家資格』(共著) 勁草書房 2005 年 研究課題：医療ソーシャルワーク MSW資格制度化問題(専門職, 専門性) 生活アセスメント		
ゼミナール概要			
キーワード： MSW業務指針 医療ソーシャルワークの専門性と特殊性 生活アセスメント			
目的、内容、目標： 福祉・保健・医療の変化のなかで、医療ソーシャルワーカー（以下、MSWという）の業務も多様化してきています。（高度・一般）急性期病院、地域包括ケア病棟、回復期リハビリ病棟、療養型（慢性期）病床、老人保健施設などにおける「本来の役割」と、それぞれの機関・施設での「（個別の）役割」を担っていくことが求められます。 医療機関の機能分担と地域連携の促進（地域完結型医療）による在宅療養、介護・看護の充実、「地域」を基礎にした「在宅」重視の『地域包括ケアシステム』の構築が喫緊の課題となっています。 こうした取り組みにおいて求められることは、MSWがメディカル、コ・メディカルスタッフとお互い（福祉、保健、医療、介護、看護）の専門性が生かし、尊重し合えるメンバーとしてリエゾン（連携）を進めシームレス（継目のない）な援助を展開すること。何よりも退院・退所後の患者・家族の「生活」を見据えた援助が必要です。 1989 年（2002 年改定）に発表された「医療ソーシャルワーカー業務指針」にはMSWの業務内容と方法が示されています。そして、その有用性からますますMSWの必要性が増大しています。患者と家族の生活全体を丸ごと「みる」なかで、ニーズを発見し必要な援助をしていくことが医療ソーシャルワークの基本であると考えています。 MSWとして援助の軸をどこにおくのか、このことが非常に大きな意味をもっています。たんにサービスを当てはめる、結びつけることではありません。患者・家族に寄り添い、その人の「生活」を丸ごととらえ、そこから援助を展開することを重視すること。MSWとして果たすべき役割を共に考えたい。 MSWになるための国家資格は、今のところありません。では、誰でもなれるものなのか？ 社会福祉士でいいのか？ MSWとして必要なものとは？ そんなことも一緒に考えたいと思っています。 MSWの立場から医療福祉の現場の状況を把握し、そこで必要とされる医療ソーシャルワークの価値、知識、技術・方法を学び、MSWの役割と課題を一緒に考えていこう。 ゼミの進め方： 主体的に問題意識をもって出席し、1回は発言するようにしよう。遅刻しない。 ① それぞれが学びたいテーマを決めて取り組むようにします。 ② グループに分かれて病院見学を行います。 ③ MSW（主にゼミの先輩）をゲスト講師に呼んで現場の話を聞きます。 ④ 患者と家族の生活全体を丸ごと「みる」ためのアセスメント「力」をつける学習をします。 ⑤ 3年の終わりから卒業論文の作成準備に取りかかります。社会福祉士国家試験対策等も行います。 ⑥ 3年の春休みには合宿を計画します。			
担当教員からのメッセージ			
MSWとしての30余年の現場での経験を生かし、MSWになりたいと思っている学生、MSWに関心・興味のある学生と一緒にMSWの役割と課題を学んでいきたいと思っています。ゼミ生が「自主性」と「主体性」を培いながら発揮できるようなゼミ活動をめざします。主役は“あなた”です。			